

小学校 第3学年 道徳科 学習指導案

日 時 平成 29 年〇月〇日（〇）第〇校時

対 象 第3学年〇組 〇人

学校名 〇〇〇〇小学校

授業者 〇〇〇〇

1 主題名 「命のつながり」 D 生命の尊さ

2 ねらいと教材

ねらい： 生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。

教 材： 「ヌチヌグスージ（命の祭り）」

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

生命を大切にすることというのは、全ての道徳的価値において基盤になるものである。命が大切なものであることは多くの児童が言葉では理解しているが、普段の生活の中で心から実感する機会は少ない。そのため、くり返し指導していく必要がある。

生命の尊さについては次のように様々な側面から捉えることができる。

- ① 受け継がれ、引き継がれていく命、様々な人に支えられ、生かされていく命（連続性・関連性）
- ② 生きとし生けるものには必ず死が訪れるという真理（有限性）
- ③ 心に残る人物の生き様などが、自らの生き方に影響があるという精神的なつながり（精神性・可能性）
- ④ 過去に遡っても、これから先も誕生することはない存在（特殊性・偶然性）
- ⑤ 命の価値は共通的に、しかも平等なものとして論じられなければならない（共通性・平等性）
- ⑥ 人間の意識、その力の及ばないところでデザインされている命（神秘性）

（参考：柴原弘志（元文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官）による「『命』を理解する観点」より）

本授業では、現実性をもって死を理解できると言われる中学年段階の児童に、自分とのかかわりとして捉えやすい「連続性」に着目して、生命の大切さについて考えさせる。今ある自分の生命は、遠い祖先から、祖父母、父母、そして自分へと受け継がれてきたものであり、その受け継いだ命は、未来に向かってつながっていくことへの不思議さや雄大さに気付かせたい。また、あわせて、自分と同様に、生命あるもの全てが、命をつなげていく尊い存在であるということも感じ取らせたい。

（2）教材について

【教材文の概要】

「ヌチヌグスージ」とは、沖縄で行われている「命の祭り」のことである。先祖の墓の前で、感謝の気持ちを歌や踊りで伝える行事である。

初めて沖縄にやってきた「コウちゃん」は、島の人たちが墓の前で行っているお祭りを見て驚く。

その様子を見ていた島のおばあちゃんから、命は父と母から受け継いだものであり、さらには祖父母や祖父から受け継いだものであること、そして、数えきれないほどのご先祖様がおり、そのうち1人でも欠けたら今の自分は存在しないという話を聞く。島のおばあちゃんから話を聞いた「コウちゃん」

ん」は、空に向かって高く手をふり、大きな声で「命をありがとう！」と言う。

【教材文活用の視点】

本教材は、主人公の「コウちゃん」が、島のおばあちゃんの話聞いて、「命のつながり」について考えるという物語である。自分の命が大勢のご先祖様から命を受け継いだものであることを知った「コウちゃん」の気持ちに共感させることで、生命の「連続性」について、自分との関わりで考えさせやすい。

まず、題名にある「ヌチヌグスージ」とは、沖縄の方言で「命の祭り」であるという点を押さえてから教材文を読む。「命の祭り」とはどのような祭りなのかという興味をもたせた上で教材提示を行いたい。

次に、基本発問で「ご先祖様を数え始めたとき、「コウちゃん」はどんなことを思ったでしょう。」と問うことで、大勢のご先祖様があつて、「コウちゃん」がいることに焦点化して考えさせるようにした。その上で、中心発問では「命ってすごい」と気付く場面を取り上げ、「コウちゃんはどんな思いで「ぼくのいのちってすごい」と言ったのでしょうか。」と問う。それによって、「受け継がれ、引き継がれていく命（連続性）」の尊さについて気付かせたい。そして、ご先祖様がいる空に向かって手を振る「コウちゃん」の思いを考えさせることで、命をつなげてくれたご先祖様に感謝する「コウちゃん」に共感させる。

【教材分析】

中心発問 ◎コウちゃんはどんな思いで「ぼくのいのちってすごい」と言ったのでしょうか。
発問の意図 ご先祖様から命が受け継がれていることを知り、「命ってすごい」と気付くコウちゃんの気持ちに共感させることで、生命の連続性の尊さに気付かせる。
予想される児童の着眼や受け止め ・ ぼくの命は、自分だけの命ではないことが分かった。 ・ ぼくは、たくさんの人の命のおかげで今を生きていることが分かった。 ・ ご先祖様が命をつなげてくれたことが分かった。 ・ ご先祖様とぼくはつながっていると思った。



基本発問 ○ご先祖様を数え始めたとき、コウちゃんはどんなことを思ったでしょう。	基本発問 ○コウちゃんは空に向かって手をふりながら、どんなことを思っていたでしょう。
発問の意図 大勢のご先祖様があつて、自分の命があることに焦点化して考えさせる。	発問の意図 ご先祖様に感謝し、命を受け継いだことを実感するコウちゃんの気持ちに共感させる。
予想される児童の着眼や受け止め ・ ご先祖様を数えてみたい。 ・ ご先祖様が何人いるかなんて初めて考えた。 ・ ご先祖様っていったい何人くらいいるんだろう。 ・ たくさんすぎて数えられないかもしれない。	予想される児童の着眼や受け止め ・ 命をつないできてくれてありがとう。 ・ ぼくも命をつないでいくね。 ・ これからは命を大切にします。

4 年間指導計画における位置付け

- 6月…主題名「つながる命」 教材名「ヌチヌグスージ（いのちのまつり）」
(本時) 生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。
- 9月…主題名「生命を救いたい」 教材名「ありがとうチャンプ」
生命の尊さを感じ取り、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。
- 10月…主題名「命を大切に」 教材名「いただいたいのち」
命の尊さを知り、すべての命あるものを大切にする心情を育てる。
- 11月…主題名「赤ちゃんが生まれるまで」 教材名「おばちゃんがんばれ」
自分の生命の尊さに気づき、ほかの人の生命も同じように大切にしようとする心情を養う。
- 1月…主題名「かけがえのない命」 教材名「女の子ときかんし」
生命の尊さを感じ取り、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。

5 指導に当たって

(1) 導入の工夫

・イメージマップの活用

導入においては「どうして命は大切なのでしょうか。」と発問し、児童の意見をイメージマップに書き表し、複数の視点から、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもたせる。

(2) 教材提示の工夫

・プレゼンテーションソフトによる教材提示

児童にとって馴染みがないと思われる「デイゴの木」や「おもしろい形の石のおうち（島独特のお墓）」、「大勢のご先祖様」等の教材中の表現を視覚的に分かりやすくするために、プレゼンテーションソフトによる教材提示を行う。プレゼンテーションソフトには、絵本「いのちのまつり『ヌチヌグスージ』」（サンマーク出版）より、挿絵と一部文章を引用する。

・BGMの活用

教材の舞台となる「沖縄」や教材中の「サンシン」の雰囲気を感知させることのできる、BGMを流しながら読み聞かせる。

・拡大した場面絵の提示

大勢のご先祖様との命のつながりを表す場面絵(図1)を模造紙程度の大きさに拡大して提示する。主人公の過去に広がる無数のご先祖様の存在を、ダイナミックに捉えられるようにする。

(3) 教材を自己とのかかわりへとつなぐ工夫

・拡大した場面絵の活用

大勢のご先祖様との命のつながりを表す場面絵を背にして、「コウちゃんに、こんなにたくさんのご先祖様がいたように、皆さん一人一人にも、これだけたくさんのご先祖様がいて、命がつながってきたのですね。」と授業者が話す。それによって、児童一人一人の命の尊さに気付かせた後、振り返りの発問へとつなぐ。

(4) 振り返りの工夫

・命の大切さについての考えを問う

振り返りでは、「命の大切さについて考えたこと」をワークシートに記述させる。「命のつながり」

や「自分だけのものではない命」について記述している児童を意図的に指名し、発表させることで、ねらいとする道徳的価値の理解を確実にするとともに、命についての考えを広げ、深めていけるようにする。

・イメージマップの活用

導入で扱ったイメージマップに、再度「命」について考えたことを書き足す。それによって「命」についての考えの広がりや深まりが実感できるようにする。

6 学習指導過程

(1) ねらい

生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・予想される児童の反応）	◇指導上の留意点 ★評価の観点
導入	1 「命」に対する問題意識をもつ。 ○ どうして「命」は大切なのでしょうか。 ・ 命がないと生きることができないから。 ・ たった一つしかないから。 ・ 親からもらったものであるから。	◇児童の意見をイメージマップに書き表し、複数の視点から、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもたせる。
展開	2 教材「ヌチヌグスージ（いのちのまつり）」を読んで話し合う。 ○ご先祖様を数え始めたとき、コウちゃんはどうなことを思ったでしょう。 ・ こんなこと初めて考えたよ。 ・ ご先祖様っていったい何人くらいいるんだろう。 ・ たくさんすぎて数えられないかもしれない。 ◎コウちゃんはどんな思いで「ぼくのいのちってすごい」と言ったのでしょうか。 ・ ぼくの命は、自分だけの命ではないことが分かった。 ・ ぼくは、たくさんの人の命のおかげで今を生きることが分かった。 ・ ご先祖様が命をつなげてくれたことが分かった。 ・ ご先祖様とぼくはつながっていると思った。 ○コウちゃんは空に向かって手をふりながら、どんなことを思っていたでしょう。 ・ 命をつないできてくれてありがとう。 ・ ぼくも命をつないでいくね。 ・ これからは命を大切にします。	◇プレゼンテーションソフトを活用して教材提示をすることで、教材の内容を理解しやすくする。 ◇サンシンのBGMを流しながら範読し、お祭りや沖縄の様子を想起しやすくする。 ◇ご先祖様が大量に描かれた場面絵を提示し、大量のご先祖様がいて、コウちゃんがいることを視覚的に捉えられるようにする。 ◇画用紙に書かせ、書いたものをもとにグループで交流させる。 ★大量のご先祖様から命が受け継がれてきたことに気付いたコウちゃんの気持ちを考えることができたか。（発言） ・ ご先祖様に手を振っていたことを確認し、ご先祖様に感謝するコウちゃんの気持ちに共感させる。

	3 自己を見つめ、考えを深める。 ○ 命の大切さについてどんなことを考えましたか。 ・ ご先祖様がいたからこそ、今を生きていられるのだ。 ・ ご先祖様に感謝して、命を大切にしていきたい。 ・ 今ここにいる一人一人が大切な命をもっているのだから、みんなのことも大切にしたい。	◇「命のつながり」や「自分だけのものではない命」、「自他の生命の尊さ」について記述している児童を意図的に指名し、数人に発表させる。 ★命のつながりや命の尊さについて、自分の考えをもつことができたか。(発言、ワークシート)
終末	4 教師の説話を聞く。	◇教師の「ご先祖様」の話をし、余韻をもって終わる。

(3) 評価

- ・ 大勢のご先祖様から命が受け継がれてきたことに気付いたコウちゃんの気持ちを考えることができたか。(発言)
- ・ 命のつながりや命の尊さについて、自分の考えをもつことができたか。(発言、ワークシート)

(4) 板書計画

場面絵

・ 命をつないできてくれてありがとう。

・ ぼくも命をつないでいくね。

・ これからは命を大切にします。

・ みんなとぼくはつながっているんだ。

・ ご先祖様がおうえんしてくれているんだ。

・ ご先祖様がいたからこそ、今の自分がある。

・ だれか一人かけたら、自分はいなかった。

ぼくのいのちってすごい！

・ 命ってふしぎだな。

・ 命ってありがたいな。

・ ぼくも命を未来へとつなげていきたい。

場面絵

・ ご先祖様っていったい何人くらいいるんだろう。

・ たくさんすぎて数えられないかもしれない。

・ こんなことはじめて考えた。

いのちのまつり
ヌチヌグスージ

○板書活用の視点

- ・ 大勢のご先祖様との命のつながりを表す場面絵を活用することで、「ご先祖様との命のつながり」に焦点化して考えさせる。
- ・ 「生命の連続性」への尊ぶ気持ちと感謝の気持ちを書き分けて、視覚化する。